



名家手簡
二集
上

259
B





二

系

名家手簡二集目錄

名家手簡

名家手簡



名家手簡二集目錄

上卷

新井白石

香川秀菴

釋萬菴

雨森芳洲

石島筑波山人

香川南洋

安積澹泊

平賀鳩溪

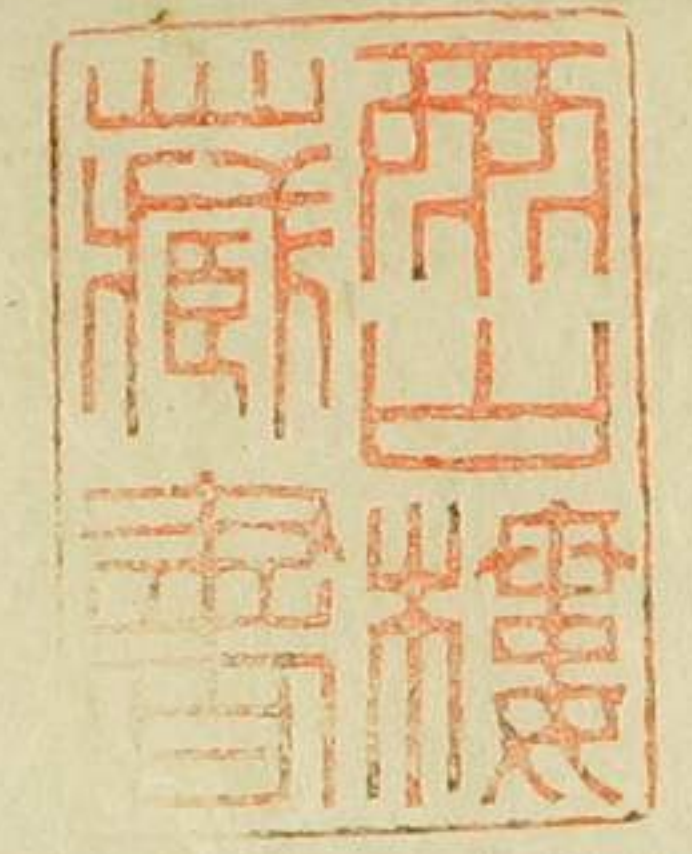
貝原益軒

龍草廬

下卷

三宅萬年

新井白蛾



村瀬 携亭
 飯尾 宗祇
 松村 紹巴
 釋澤 菴
 狩野 探幽

奥田 拙古
 千利 休
 僧似 雲
 釋江 月
 釋浩 然

新井白石

名洪後改君美字在中別号錦屏山人稱勘解由
 任筑後守享保十年卒六十九

家系

新井白石
 為新唐之沙隱
 其後亦見作沙隱編

沙後新... 地... 河... 遠... 知... 湖...
沙後新... 地... 河... 遠... 知... 湖...
沙後新... 地... 河... 遠... 知... 湖...
沙後新... 地... 河... 遠... 知... 湖...

少... 高... 高...
少... 高... 高...
少... 高... 高...
少... 高... 高...

新井知由

一... 田

福の山系
作

香川秀菴

名修徳字太冲别号一本堂播州人
住京師

美智の故郷に
ふるさとあり
心なほ
ふるさとあり
ふるさとあり

全

洛之くわんを有る
ふまのふまのふまの
ふまのふまのふまの
ふまのふまのふまの
ふまのふまのふまの
ふまのふまのふまの
ふまのふまのふまの

ふまのふまのふまの
ふまのふまのふまの
ふまのふまのふまの
ふまのふまのふまの
ふまのふまのふまの
ふまのふまのふまの
ふまのふまのふまの

自有言

抄却之早

齊

釋萬菴

名原資号芙蓉或江陵住江戸東禅寺善持

知也
曲揚
不亦
如子
如也
如也
如也
如也

海に舟を乗せ
舟に舟を乗せ
舟に舟を乗せ
舟に舟を乗せ
舟に舟を乗せ
舟に舟を乗せ
舟に舟を乗せ
舟に舟を乗せ

舟に舟を乗せ
舟に舟を乗せ
舟に舟を乗せ
舟に舟を乗せ
舟に舟を乗せ
舟に舟を乗せ
舟に舟を乗せ
舟に舟を乗せ

如日油
如日油
如日油

在
在
在

例
例
例

如
如
如

如
如
如

如
如
如

如
如
如

夏星

雨森芳洲

名東一名滅清字伯陽梅東五郎京師人為對州記室八十八歲沒

全

予りて言ふに歩孔正清
由報功誰見為曲之終
誠也而映其清也先小
半森江之能周之如以終也
於是以通之先年以也

四女... 邊方
... 何名...
... 行...
... 心腹...
... 言...
... 過十...
... 人

情風... 通... 觸... 感...
坐... 日... 愁... 不... 推...
第... 窮... 鳥... 困... 魚... 已... 墜... 籠... 釣... 之... 中... 終...
無... 解... 脫... 之... 望... 此... 生... 遺... 憾... 何... 以... 加... 此...
足... 下... 以... 龍... 潛... 之... 窟... 有... 窟... 任... 之... 榮... 不... 知... 亦...
有... 意... 於... 放... 諸... 况... 浮... 推... 之... 青... 雲... 肯... 為...
司... 馬... 之... 揚... 得... 意... 耶... 廣... 人... 之... 從... 誰...
陰... 清... 洞... 裏... 蝦... 蟪... 思... 量... 要... 天... 鵝... 肉... 喫...
... 梯...
... 心...
... 水...
... 思... 量... 遠...
... 心...

有程
以易言之其理入於心
而後了也此也信在
於心誠為之也
不風於考公能為道地之
鬼之也一也古賦之也
之更服身之計法之也
富貴榮耀之印為大日在上
毛羽之也之也一也
遠地羈留之也之也
為之也之也力之也

按之也之也
心腹之也之也
之也之也之也
之也之也之也
一從辭紫陌鬚髮日蒼惆悵
上林賦難逢得意揚
四海誰知己乾坤一病身体怪
彈劍刻急青雲有故人

山内休之常高和示弟
以河内之志以中凡
不事不待进身於不
後多一何之理也

西林東書印

三子組

修

新井幼解由氣
木

石島筑波山人

名藝字子游初名正精字仲塚禰与右門
南郭門人

全

知りて平らるる好む
此方共存心におよぶ
押さへていへるは
小く大なる心能

いかにかゝるに
いかにかゝるに
いかにかゝるに
いかにかゝるに
いかにかゝるに
いかにかゝるに
いかにかゝるに
いかにかゝるに

いかにかゝるに
いかにかゝるに
いかにかゝるに
いかにかゝるに
いかにかゝるに
いかにかゝるに
いかにかゝるに
いかにかゝるに

音川南
當身正東家
分多亦存也
身比存亦如
以遠一也
用多子存
若

音川南
當身正東家
分多亦存也
身比存亦如
以遠一也
用多子存
若

安積澹泊

名覺字子先号老圃或常山老牛稱覺兵衛
水府儒臣元文二年没

安積澹泊

此

安積澹泊

安積澹泊

安積澹泊

安積澹泊

安積澹泊

安積澹泊

安積澹泊

安積澹泊

安積澹泊

安積澹泊

安積澹泊

安積澹泊

安積澹泊

如... 公... 長... 官... 所...
... 之... 自... 所... 主...
... 之... 亦... 之... 之...
... 之... 之...

二月

平賀

平賀鳩溪

平賀鳩溪

名國倫字士彞号夙未山人或福内鬼外稱源内
東都人精物産学寶曆中人

全

平賀鳩溪
平賀鳩溪
平賀鳩溪
平賀鳩溪

香印書付書上
何如あなま
十のうと上細一
仕与り作と新番
細く是れと相

去るぐうとと今上

平賀厚印

五月十日

茶花書印

貝原益軒

名萬信字子誠一號損軒通稱久兵衛
福岡侯臣正徳四年没八十五

筑前村山氏藏

少事瑞以之味法之味之味法也
法合以平氣之味之味也之味也
也承能素之味之味也之味也
おはの工造年也外之味之味也

不亦能法也味法也之味法也
持少按身之味法也之味法也
抑勢也之味法也之味法也
芳茶之味法也之味法也之味法也
若者也之味法也之味法也之味法也
之味法也之味法也之味法也
第信也之味法也之味法也

竹之物也布一尺方寸一尺一寸
之細くともあまをりし百二寸訪ふ所
不重く月録より即旬接し何
の意

九月廿二日

竹田助美松尾宗隆軒

龍草廬

名公美字子明後改君玉又号松菊或異竹翁稱
蒲門彦根侯文学寛政四年辛七十九

竹田助美松尾宗隆軒
九月廿二日

Handwritten cursive Japanese calligraphy (sōsho) in a rectangular frame. The text is written vertically in four columns from right to left. The characters are highly stylized and fluid, characteristic of the cursive style. The rightmost column contains the characters '山田', the second column '太郎', the third column '五郎', and the leftmost column '三郎'. The entire piece is enclosed in a simple black rectangular border.

彦根小野田式

